

平成25年11月29日
県土整備部河川課

報道関係者各位

一級河川吉野川（南陽市）における緊急治水対策について

～災害関連事業・河川災害復旧等関連緊急事業（復緊事業）の採択～

平成25年7月中旬からの記録的な豪雨により、南陽市の吉野川が氾濫し、市街地を含む各地で浸水被害が発生したことを受け、国土交通省と今後の方策について協議を進めた結果、河川改修による効率的かつ早急な治水安全度の向上の必要性が認められ、この度災害関連事業及び復緊事業が採択されました。

県では、今年度から4年間で河川改修を実施し、今回と同等規模の降雨に対する浸水被害の解消を図ります。

記

災害関連事業の概要

家屋等への浸水被害、河川護岸等の欠壊などの被害が発生した南陽市金山地内において改良復旧を実施し、浸水被害の解消を図ります。

事業区間：約1.8km（南陽市金山地内）
事業内容：河道拡幅、築堤、護岸工等
事業期間：平成25～27年度（3ヵ年）
事業費：約3億1千万円

復緊事業の概要

吉野川の氾濫による南陽市街地での広範囲の浸水被害に加え、上流での災害関連事業の実施により、同規模の降雨があった場合、上流域で氾濫せずに河道を一気に流下することになり、市街地での浸水被害の拡大が懸念されます。

下流域においても一体的な治水安全度の向上が必要であり、集中的に河川改修を実施し、市街地の浸水被害の解消を図ります。

事業区間：約7.1km（南陽市赤湯～宮内地内）
事業内容：河道拡幅、築堤、護岸工等
事業期間：平成25～28年度（4ヵ年）
事業費：約32億5千万円

事業費には平成25年度災害対策等緊急事業推進費を含む。

問合せ先	
県土整備部河川課	
副主幹（兼）課長補佐	小松 英伸
TEL	023-630-2615
報道監	県土整備部次長 相田 信

吉野川 河川改修事業の概要

■吉野川の概要

- ◆ 吉野川は、南陽市吉野地区の大窪山に源を発し、同市小滝地区より南流し、南陽市の中心市街地を流下した後、左支川屋代川と合流して最上川に流入する一級河川である。
 - 延長 $L=28.7\text{km}$ (うち県管理区間は、最上川合流点から2km上流より上流側の26.7km)
 - 流域面積 $A=169.4\text{km}^2$
- ◆ S42年の羽越水害を受け、S45年より支川の屋代川と共に河川改修事業に着手し、これまで、当時被害の大きかった屋代川の改修(整備計画 $380\text{m}^3/\text{s}$ に対して $300\text{m}^3/\text{s}$ での段階施工)と、治水上ネックとなっていた吉野川下流側のJR橋の架替等が完了。
- ◆ 今後は、吉野川本川の現況流下能力は最小で $79\text{m}^3/\text{s}$ 程度で洪水氾濫の恐れがあるため、築堤、河道掘削により改修(整備計画 $370\text{m}^3/\text{s}$ のうち $300\text{m}^3/\text{s}$ 程度の段階施工)を進める予定としていた。



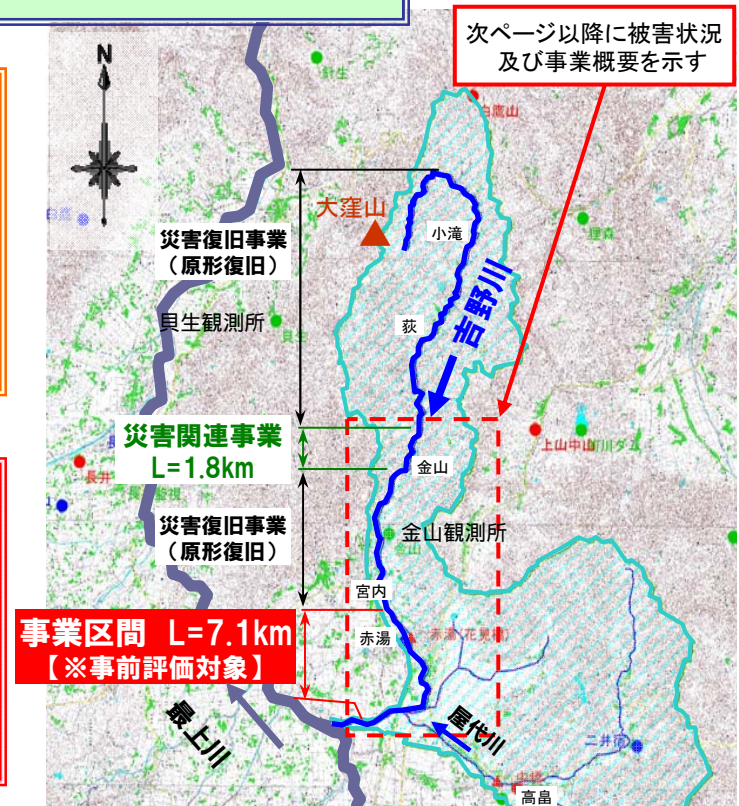
■平成25年7月豪雨における吉野川流域の被害状況

- ◆ 7月17日～7月18日にかけて、吉野川流域では、昭和42年の羽越水害以来となる激しい豪雨に見舞われ、赤湯地区、宮内地区の市街地等において家屋の浸水や、農地、道路の冠水など、甚大な被害が発生。

金山観測所(中流域)	時間雨量	30mm/h	24時間雨量	122mm/24h
貝生観測所(上流域)	時間雨量	58mm/h	24時間雨量	240mm/24h

■事業の目的

- ◆ 今回の豪雨で市街地で大規模な浸水被害が発生したことにより、再度災害防止のため早急に整備を進める必要が生じた。
- ◆ このため、短期間(4ヵ年)で集中的に河道掘削や築堤などの整備を行うことにより、当面の流下能力を向上させ、住民の安全・安心を確保する。
- ◆ 計画流量は、今回規模の洪水を安全に河道内を流下できる $210\text{m}^3/\text{s}$ に設定。



H25. 7月豪雨による吉野川流域の被害状況

①赤湯中学校下流



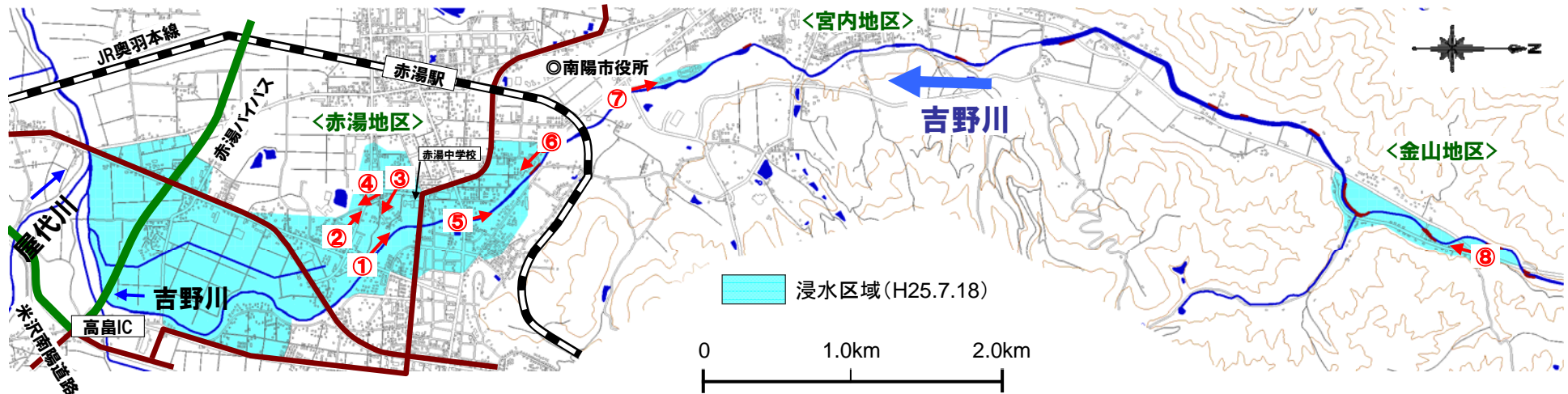
②南陽市街地冠水



③南陽市街地冠水



④南陽市街地冠水



⑤県道花見橋より上流を望む



⑥県道吉野橋下流右岸越水



⑦赤湯自動車学校付近



⑧金山地区護岸欠壊



吉野川 河川改修事業 平面図・横断図

